

テーマ① 団体、部会の枠を超えた効果的な啓発活動のアイデア

- ・ 啓発活動に参加している方のママ友、サークル、PTAなど他のグループの繋がりを活用する
- ・ 広報板を活用する
- ・ インセンティブ制の導入
- ・ 高齢者に対する啓発活動は、民生委員が実施している各戸訪問を活用する
- ・ 回覧板は世帯全員が閲覧するわけでないので、あまり効果がない
- ・ 子どもパレードによる啓発活動を実施し、親やお爺ちゃん・お婆ちゃんの参加を促す

テーマ② 広報を協力し合うアイデア

- ・ 学園祭など人の集まる場にブース出店し、広報活動する
- ・ 既存の広報誌の一覧表を作成し、共有できるものは共有し集約化する
- ・ 絆工房の広報誌を作成する
- ・ 行政機関が地域のイベントに参加する

テーマ③ 活動を根付かせるために、若い世代(学生、20～40代、PTA世代)が参画するには

- ・ インセンティブ制の導入
- ・ 啓発物品の企画段階から学生に協力依頼する
- ・ 学生に対してはある程度の強制力を発揮させる(サークルの先輩やOBから依頼)
- ・ 地蔵盆や区民運動会など世代を超えて楽しめる機会を増やす
- ・ 世代に応じた情報伝達手段(SNS、チラシ等)により参加依頼する

まとめ

啓発活動を他団体と合同で実施することが効果的なことは理解できるが、いつ・どこで・なんの啓発活動をするのか情報が入ってこないのが困難。さらに他団体の啓発活動に参加するには、時間的に余裕がない。また、啓発活動に参加している意識の高い人は一部であり、参加者を増やすには何らかの特典(インセンティブ)を用意するなどしないと啓発活動する人が集まらない。情報共有の解決策として、ママ友・サークル・PTAなどのグループを有効活用することを検討すべき。

単身者世帯の増加・ジェネレーションギャップなどによる、地域コミュニティの低下を解決することで解決する問題も多いため、近所付き合いの希薄化の問題解決を図る。そのための一つの手段として、地蔵盆、区民運動会など世代を超えて楽しめる機会を増やす。

テーマ① 団体、部会の枠を超えた効果的な啓発活動のアイデア

話題になったトピック(盛り上がった内容)

- ・ 模索中(効果的なことは理解している)
- ・ 小学校PTAを活用(番組小学校が学区の基礎であり、様々な人がかかわっている)
- ・ 普段から声掛けをして、人と人の繋がりを構築する(あいさつ運動)
- ・ 様々な媒体や場所で各団体の活動をアピールする
- ・ 学内の広報誌の編集員をいろいろな団体から選出することで、記事にする
- ・ 参加者へのインセンティブを用意する
- ・ 各団体が情報共有できる体制づくり
- ・ 縦の情報を横の情報へ(格式ばらないでワイワイできる場)
- ・ 絆工房の模様をメディアに取材してもらう
- ・ お知らせビラが多すぎるので情報を整理する(集約化)
- ・ 興味がなくても目に入るチラシの工夫とロコミの方法
- ・ 回覧板をまわしても家族で情報共有しないのであまり意味がない
- ・ 地域のことに無関心な住民が多い
- ・ 町内会では複数の役員を掛け持ちしているので、枠にとらわれていると思わない
- ・ 元誓願寺通の自転車指導は、地元、警察、区役所、大学が一緒になってやっている
- ・ 啓発は自己満足では駄目(興味のない人をいかにひきつけるかが重要)

解決などのアイデア

- ・ 大学の各サークルに出向いて啓発活動をする
- ・ ママ友グループに協力依頼
- ・ 上京マラソン(区民限定)を実施し啓発(上位入賞者に京都マラソンの優先出走権)
- ・ 各世代に応じた情報共有の手段を用いる(フェイスブック、ライン、回覧板等)
- ・ 各団体が年間行事を共有し、他の団体の行事と合同で実施し、PRする
- ・ 民生委員が実施している独居老人訪問に他の団体の情報も一緒に届ける
- ・ ラジオ、テレビ、新聞等のメディアを活用した広報活動
- ・ 回覧板の情報を整理して、見やすくする
- ・ 他の団体の活動を経験しあう
- ・ 町内会を核として進める
- ・ 高齢者の集まる場をつくり、チラシだけでなく、言葉での説明
- ・ 全戸配布(ポスティング)
- ・ 他団体の活動に積極的に参加する
- ・ 警察や行政と一緒に活動する
- ・ 活動実態を見せて、興味をもってもらう

記録者が気になったこと

- ・ 複数の役員が多くいて、他団体の活動は知っているが、団体の枠を超えての考えはない
- ・ 役をしている時は、情報が入ってくるが、役を降りると入ってこない
- ・ 全世代共通の情報共有の手段は広報板のみである
- ・ 環境整備といわれてもピンとこない
- ・ PTAとの連携強化
- ・ 行政がすることであって、区民がすることでない
- ・ 行政の啓発に対する批判的な意見が多かった

テーマ② 広報を協力し合うアイデア

話題になったトピック(盛り上がった内容)

- ・ 大学生が興味をもつ啓発物品はUSBメモリー
- ・ 自営業者が減り、時間に融通のきく人が減った(勤め人が増えた)
- ・ 区役所から地域のイベントにもっと参加する
- ・ ティッシュだけでは受け取ってもらえないケースが増えた
- ・ 啓発時の言葉遣いに気をつかう
- ・ 自分の所属する団体の活動で忙しく他に手がまわらない
- ・ 情報共有できていない
- ・ 地下鉄の駅の余剰スペースにポスターを掲示する
- ・ 絆工房の広報誌の作成
- ・ 上七軒の舞妓さんのうちわは好評ですぐになくなった
- ・ 防災訓練は自主防が中心だが、他団体に協力依頼することで広報にもなる
- ・ 「ふれあいカフェ」のスタッフに学生が従事することで、年配の方とのとっかかりとなる
- ・ こども参加型の啓発活動

解決などのアイデア

- ・ 区役所の配架スペースを活用する
- ・ 回覧板や広報板を活用する
- ・ 子どもパレード(保護者が観覧にくるので効果がある)
- ・ 啓発活動に有名人(佐々木蔵之介)をよぶ
- ・ 学園祭に区役所がブースを出し、活動の呼びかけを行う
- ・ 全戸配布
- ・ 舞妓さんに協力依頼
- ・ かみぎゅう君等のキャラクターを呼ぶ
- ・ 留学生に対し困りごと相談を実施し、そこから発展させる
- ・ 大学のゼミに参加依頼

記録者がきになったこと

- ・ 携帯電話を使った情報発信を地域活動で活かすのは困難
- ・ 公用車を使っての広報活動
- ・ 広報活動参加者にはインセンティブを用意する
- ・ 役員同士でも相互理解できていない
- ・ 既存の広報誌の規模、頻度、内容等を一覧にして情報共有を図る
- ・ 広報物等の印刷物を各種団体協力して作成し、訴求内容をコンパクトにまとめる

テーマ③ 活動を根付かせるために、若い世代(学生, 20~40代, PTA世代)が参画するには

話題になったトピック(盛り上がった内容)

- ・ 統合校では元学区と異なるため, PTAからの人材供給がうまくいかない
- ・ 昔は隣近所の付き合いがしっかりあったが, 今は希薄になっている
- ・ 自治会のハードルが高く, 学生は中に入っていくことができない
- ・ 過去に自分が所属している団体に, 同志社大学生に声を掛けたができなかった(興味のないことには基本的に係わりとしない)
- ・ たたみバンド
- ・ 共働き世帯の増加により, 役員をしてくれる人が減った
- ・ PTAでは交代があるが, 他団体はトップがずっと一緒
- ・ 若い世代自体町内にいない
- ・ 子どもの行事に親が同伴や参加できるようにする
- ・ 「門掃き」により町内のコミュニケーションがよくなった
- ・ 嘉楽中の野球部員が毎朝学校周りのゴミ拾いをしている
- ・ 地蔵盆や区民運動大会後の懇親会がコミュニケーションをとる良い機会になる
- ・ 最近では地域の子どもとふれあう機会がない
- ・ 若者が興味をもつ取組を考える
- ・ 地域役員とPTA役員に世代間ギャップがある

解決などのアイデア

- ・ 学生には, ある程度の強制が必要(部活の先輩などから声掛けをする)
- ・ 子ども頃から活動している手本を身近にしておくことで, 好循環がうまれる
- ・ 祭, 地蔵盆, 運動会など世代を超えて楽しめる機会を増やす
- ・ 単身者世帯では, 自治会費を半額にし, 役員就任なしなど特典を与えている
- ・ 啓発物品を参加した若者たちで考える(なんでもかんでもティッシュではダメ)
- ・ 大学の学園祭などでステージショーを実施
- ・ 地域役員に府市民税の減額制度
- ・ PTA会長に各種団体の会議に出席してもらい, 地域の活動に誘う
- ・ 声掛けの実施
- ・ PTA役員⇒地域役員の流れ

記録者がきになったこと

- ・ マンションの増加が自治会加入率の低下の要因のひとつ
- ・ 地域特徴を活かした活動を実施
- ・ 全てのテーマで新しいアイデアはなく, 行政頼みの傾向があった
- ・ インセンティブを検討
- ・ 学生は卒業により地域から出て行くので引継ができる体制づくり
- ・ 中高生が活動するイメージがわからない
- ・ PTA役員は忙しいのに, 会議などにどうやって出席するのか